

## 税を通して私達にできること

新潟大学教育学部附属長岡中学校

三年 上村 由紀

一昨年の四月、消費税率が五パーセントから八パーセントに上がった。今では、私は増税されたことに慣れたが、買い物をするたびに、商品の値段が高くなったなあと感じていた。そもそも、なぜ私達日本国民には、税金を払う義務が与えられているのだろうか。

社会科の授業で、税金について学ぶ機会があった。そこで学んだことは、国民が支払う所得税、消費税などの税金が国の財源の大部分を占めていること、そのお金が社会保障に約三分の一が使われていることだ。このときに、私は、自分や家族が払っている税金が、医療や介護、少子化対策に役立っていることを知った。私達が払っている税金が世の中に生かされていることが分かり、私はとてもうれしくなった。

世界では、日本のように、税金を社会保障に役立てている国はたくさんある。ヨーロッパでは、ハンガリー、アイスランドを中心に消費税率が二十パーセントを越える国が多くある。このことを学んだとき、私はとてもおどろいた。日本では、消費税率を八パーセントや十パーセントに上げる案が出たときに、反対の意見もたくさん

出た。それなのに、これほど税率が高くて、反対する人はいないのかと、私は疑問を持った。そのとき、税務署で働いている私の父は、

「ヨーロッパの消費税率が高い国では、その分医療費がとて安くなったり、無料になる国もある。また、食料品などには高い税率をかけない、軽減税率が適用されているんだよ。」

と教えてくれた。父の説明で私は納得がいった。税率が高い分、国民が暮らしやすい環境がつけられていた。世界でも、税金がみんなの暮らしを支えていた。

私は、日本でも、世界でも、人々の暮らしを支える大きな役割を担っているのが税金である、ということを学んだ。日本国民に税金を払う義務が与えられているのは、国の財源を補うためだけではないと私は考える。国民の一人一人が税金を通じて暮らしやすい環境をつくるために義務があるのではないか。私は、税金は国民が支え合う一つの手段だと思う。日本は、深刻な少子高齢化により、高齢者を支える働き手が減っていく、と予測されている。こんな世の中の財源を支えるのも税金だ。税金があることによって働き手の社会保障の費用の負担を減らすことができる。

私は、日本や世界の税金について学び、税金を通して人を支え、世の中の役に立てるのは素晴らしいことだと思った。これからは、買い物など、身近な行動でも誰かの何かの役に立ると信じて生活していきたい。無力な私でも、税金を通して誰かを支えられる、この考え方をたくさんの人に広めていきたい。